

「しょうのう舟(1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

小学生の頃は八王子に住んでいた。市街地の甲州街道では、毎年「八王子まつり」「酉の市縁日」などで、数え切れないくらいたくさんの夜店が出ていた。また母の実家の埼玉県小川町では、毎年7月下旬に「七夕まつり」があり、そこにもたくさんの夜店が出た。「金魚すくい」「綿菓子」「くじ引き」「ヨーヨー釣り」などは、今でも定番の夜店だが、今では見かけなくなったお店も当時はたくさんあった。

たとえば「山吹鉄砲」という夜店。天然のヤマブキの茎の芯の部分は、弾力のある独特の組織でできている。それを竹や木材で作った筒につめて、飛ばして遊ぶ玩具である。仕組みとしては「空気鉄砲」そのものだ。祖父と一緒に遊んでくれて、「玉は前玉と後玉を離すこと」「玉を水でぬらすとよく飛ぶこと」などのコツを教えてくれた。今の理科の教科書に載っていることを、遊びの中から学べたように思う。

「海ほおずき」というのもあった。これは正体が「貝類の卵のう」で、それを空気と一緒に口に含み、舌で押して「ブーブー」鳴らして遊ぶのだ。もともとホオズキの果皮での遊び方の一つで、それに似ているので「海ほおずき」と呼ばれていた。私は何度やっても鳴らすことができなかったが、祖母が天才的にうまく、単なる音だけでなく、簡単な旋律まで披露してくれた。

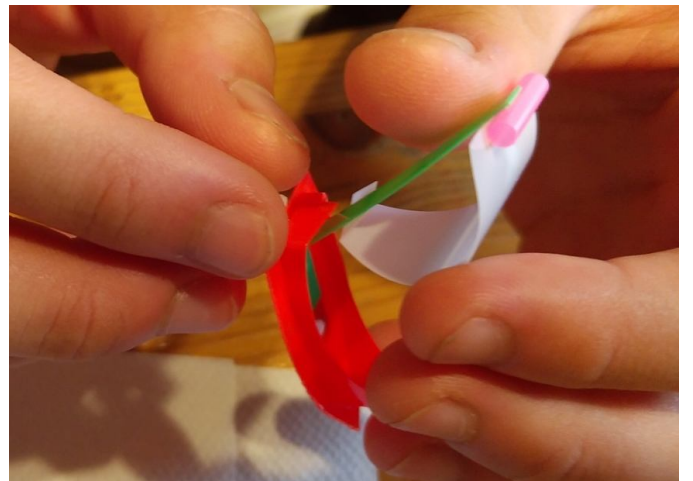


夜店の玩具の中でも、私が一番好きだったのが「しょうのう舟」である。私が子どもの頃は、どこの縁日でも必ず「しょうのうぶね」の看板を出したお店があ

って、人だかりができていたように思う。その後何十年もお目にかかっていなかったが、最近浅草橋の「駄玩具問屋」で発見。価格も350円と手ごろで、「懐かしさ」も手伝って、3セットも「爆買い」してしまった。それをさっそく試してみることにした。



「しょうのう舟」のセットの中には、カラフルな大小の小舟が5~6隻、燃料の「しょうのう(樟脳)」、それに簡単な説明書もついている。この小舟は「セルロイド」という今はあまり見かけなくなった合成樹脂でできている。私の記憶では、夜店のおじさんは、その場でセルロイド板を切り取って、素早く小舟を作っていたように思う。その職人芸も面白くて、なかなかお店を離れられず、結局最後は買ってもらったものだ。今回入手したものはボール箱に入っていたが、夜店のものは「金魚すくい用の袋」に、小舟と樟脳を入れて持たせてくれたような気がする。



しょうのうは小片にして、船の後部の「切れ込み」に差し込む。これが「燃料」になる。この状態で水に浮かべると、面白いように水面を動くのだ。私は家にあつたプラ板で小舟を作り、同じようにしょうのうを挟んで試してみたが、全く動かなかった。「セルロイド製の小舟」でないとダメだと、その時学んだ。